

徳島大学病院長に就任した

やすい なつお  
安井 夏生さん



年間の外来患者約41万4千人、入院患者約21万6千人の徳島大学病院。地域の医療拠点として、県民の健康を支える中核病院の役割を担うことになった。「県内唯一の特定機能病院として高度医療を提供するとともに、最先端の医学研究を行い、高い倫理観を備えた医療人を養成したい」。強いまなざしで抱負を語る。

らしい師匠でも1人よりも、複数の師匠からの方が学ぶことは多い」が口癖。一般医学は人並み以上、専門医学は誰にも負けない知識と技術を身につけるため、若手医師には最低5つの病院を経験しろと指導している。「ただ、ずっと病院を回るのは大変だから、独身か子どもが小さいうちだけね」。時折見せる笑顔が優しい人柄を物語る。

しかし「経営より、まずは人」ときっぱり。医学、歯学など7学科に加え、疾患酵素学と疾患ゲノムの両研究センターがそろった蔵本キャンパスの教育環境を最大限に生かし、チーム医療ができる人材の育成、専門分野の垣根を越えた最先端の研究に意欲を燃やす。

来春には県立中央病院と徳島大学病院をつなぐ連絡橋が完成する。「大学病院は高度医療、中央病院は救急や災害医療と役割分担し、1+1が3にも4にもなるような医療を県民に提供したい」趣味は剣道で、4段の腕前。忙しい仕事の合間を縫って、学生と対戦するのが楽しみだ。「剣道は心技体。医学と通じるところがあるんです」。大阪府吹田市出身。2人の息子と長女は独立し、現在は徳島市内で妻(58)と2人暮らし。63歳。

専門は運動機能外科学。徳島大学医学部を卒業後、関東や関西の6病院で勤め、2001年に徳島大学病院に戻った。「どんな素晴らしい医療現場にも貢献したい」と語る。

国立大学法人化以降、国からの交付金は減り続け、病院経営も効率化が求められるようになった。